

ツーリングモニタ取付説明書

HONDA PCX／PCX150

使用上のご注意

ツーリングモニタの見過ぎにより交通事故を起こさないよう十分に注意して運転してください。

目次

1. 同梱物の確認	4
2. 取り付けに必要な工具類	6
3. 注意事項	6
4. 外装部品の取り外し	7
①フロントグリルの取り外し	7
②メータバイザの取り外し	8
③フロントメータパネルの取り外し	10
④メータパネルカバーの取り外し	11
⑤インナメンテナンスリッドの取り外し	13
⑥シートの取り外し	13
⑦センタカバーの取り外し	14
⑧インナカバーの取り外し	16
5. 各信号線の配線	19
①本体の設置場所	19
②ウインカリレーの移設	19
③ボックス本体の設置	21
④エンジン回転信号、燃料噴射信号、 スピードパルス信号各コードの接続	22
⑤気温センサの取り付け	27
⑥電源プラス、電源マイナス、モードスイッチ、 ウインカ信号各コードの接続	27
⑦各コネクタの接続	32
⑧コード保護チューブの取り付け	33
⑨液晶表示器の取り付け	34
6. 各部のチェック	37
7. 故障かなと思ったら	38

1. 同梱物の確認

送られてきたものに不足がないか確認してください。
万が一不足がありましたら恐れ入りますがメールにてご連絡ください。

- ① ツーリングモニタ回路基板本体 (収納ボックス入・コード付)



- ② 液晶表示器 (ケーブル約70cm付)



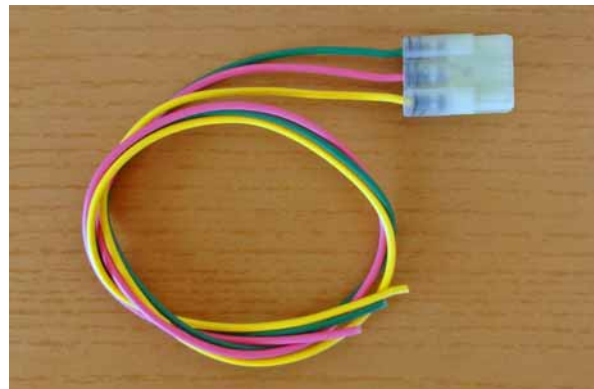
- ③ リチウム電池 (CR1220)



- ④ 気温センサ (ケーブル約40cm付)



⑤3P防水コネクタ付コード(緑・桃・黄)



⑥自己融着テープ約10cm

自己融着テープは縦横それぞれに半分に切り、エンジン回転信号コード、燃料噴射信号コード、スピードパルス信号コードの接続に使用します。

⑦ツーリングモニタ取付説明書(この冊子)

⑧ツーリングモニタ取扱説明書

これ以降は「取付楽々セット」をご注文頂いた方に同梱されています。

⑨ミラーホルダ

⑩ミラーホールカバーキャップ



⑪液晶表示器ステー



⑫本体収納ボックス取付用マジックテープ

10cm

⑬液晶表示器取付用マジックテープ

8cm

⑭気温センサ取付その他配線固定用結束バンド

短4本

⑮カプラ固定用結束バンド

長1本

⑯本体収納ボックス固定用マジックタイ

25cm

⑰電源プラスコード他保護チューブ

5φ20cm1本

⑱エンジン回転信号他保護チューブ

5φ30cm1本

⑲電源マイナス保護チューブ

3φ25cm1本

2. 取り付けに必要な工具類

取り付けに必要な工具等は以下のものをご用意ください。他の工具で代用できる場合もあります。「取付楽々セット」を注文されていない場合は、本体ボックス・液晶表示器等を取り付けるために必要なものをご用意ください。

①一般工具

プラスドライバー #2
マイナスドライバー
10mmスパナまたはボックスレンチ
プライヤまたはペンチ
パネルはがし
精密ドライバー
5mm六角レンチ(ミラーホルダを取り付ける場合)

②エンジン点火・燃料噴射・スピードパルス各信号コード接続用工具

カッターナイフ
半田ごて
ヤニ入り半田
フラックス(あれば)
絶縁ビニールテープ

【各信号コードの結線について】

結線はできるだけ半田付けを推奨しますが、半田付けをしない場合は工具は必要なく、右の写真のような、市販の分岐用結線コネクタ3個を用意してください。コードは0.3sqを使用していますので、そのサイズに適合しているものを使用してください。また、防水のため自己融着テープでの仕上げをした方が望ましいでしょう。



3. 注意事項

・PCXの各部品の名称は、サービスマニュアルに記載されている名称をできるだけ使用していますが、一部独自の名称もあります。

・作業に取り掛かる前に、取付説明書及び取扱説明書を一通り読むことをお勧めします。

4. 外装部品の取り外し

①フロントグリルの取り外し

まず、ヘッドライト上部のフロントグリルを外します。フロントグリルとメータバイザ(スクリーン)の隙間の奥、黄色い矢印の場所にビスがあるので、プラスドライバーで外します。



外したビスです。これ以降、外したビスやボルト類は写真を掲載しますので、もし、「このネジどこだったかなあ」という状態に陥ったときは写真を参考にしてください。ただ、PCXの場合は外す部品がそれほど多くないので、ネジが余るということになる確率は低いと思います。



ビスを外したら、写真の黄色矢印の部分を手前に引き、スナップフィットクリップという留め具を引き外します。



写真のように境目に爪を引っ掛けて手前に引くとフロントグリルが外れます。爪をはがさないように注意して引っ張ります。



こちらは反対側です。白い矢印の白い突起がスナップフィットクリップです。これがボディ側の溝に刺さっています。



両側のスナップフィットクリップを外したら、スナップフィットクリップ付近を手前に引くようにしながら、写真の手がかかっているあたりを持って、手前に引くとフロントグリルが外れます。スナップフィットクリップ以外にもいくつか爪がありますが、手前に少し強く引くと外れます。



スナップフィットクリップと爪の位置です。フロントグリルを裏から見たところ。上の矢印2箇所がスナップフィットクリップ、下の矢印4箇所が爪のある場所です。



②メータバイザの取り外し

メータバイザ(スクリーン)はフロントグリルを外すと現れてくる4本のボルトを外すことにより、取り外すことができます。写真は左側(車両進行方向から見て)の2本のボルトです。



こちらは右側の2本のボルトです。



ソケットレンチやスパナなどでボルトを外します。



メータバイザを保護するためプラスチックのワッシャがあるので、落とさないように注意してください。



メータバイザはボスにはまっているので、少し持ち上げながら引き上げると簡単に外れます。



③フロントメータパネルの取り外し

フロントメータパネルはメータバイザを取り外すとその下に現れてきます。フロントメータパネルはメータバイザと共締めになっているため、ボルト類を外すことなく、取り外すことができます。



フロントメータパネルは、メータバイザよりきつくボスにはまっているので、写真のようにマイナスドライバを使って外します。



マイナスドライバを隙間にさしこみ、フロントメータパネルを浮かせるようにして取り外します。



もう一方も同様に取り外します。



片側が完全に外れれば、右側は手で外すことができます。



黄色い矢印の部分に爪があるので、爪を外しながら手前に引いて、フロントメータパネルを取り外します。



フロントメータパネルが取り外されると内部が丸見えになります。

写真の上に見えるコードの付いた部品は、アラームのインジケータです。取扱説明書ではメータの左横につけることになっていますが、コードがだらだら出て嫌なので、写真の位置に取り付け、メータの亚克力部分を通して、メータ内の上部が光るようにしています。一見、後付ではないように見えますが、目立たないので警告の効果が薄れるかもしれません



④メータパネルカバーの取り外し

さて、問題のメータパネルカバーの取り外しです。何が問題かというともメータパネルカバーの爪がとても硬く、爪を折ってしまったからです。

まず、右側の爪の部分パネル剥がし等を使って注意しながら持ち上げます。右側はそれほど問題もなく外れると思います。爪の位置は下の写真を参考にしてください。



左側が問題で、こちらの爪を折ってしまいました。左側はパネル剥がしが十分に引っかかる場所がないので、うまく力が掛けられません。仕方がないので、下側にある2箇所のスナップフィットクリップを先に外し、最後に残った左上部の爪を「エイツ」と外したところ、見事に爪を折ってしまいました。どうぞ、十分慎重に作業を進めてください。



スナップフィットクリップと爪の位置です。この写真は裏側から見ていますので右上(車体進行方向から見ると左側)の爪を折ってしまいました。



こちらは右側の爪です。上から見ています。



右側と同様の爪がありましたが、無残な姿になりました。こちらは下側から見ています。

爪の部分が黒く見えますが、実はアラームを取り付けるときに最初に折ってしまい、折れてしまった爪は「プラリペア」という補修材で修復しました。これは接着剤とは異なり、プラスチックを一部溶かして修復するというものなのでかなり強固に修復できます。アラームを取り付けたときはパネルを修復した爪を折ることもなく取り付けることができましたが、ツーリングモニタの取り付けの際再度パネルを外したらまた折れてしまいました。また修復して取り付けましたが、ここはもう二度と外したくないです。



⑤ インナメンテナンスリッドの取り外し

続いて、インナメンテナンスリッドの取り外しです。メタパネルカバーを外した部分に隙間があるのでその部分から外していきます。



写真の白い矢印部分にスナップフィットクリップがありますので、それを意識しながら外していきます。



黄色い矢印の部分がスナップフィットクリップ、白い矢印の部分が爪になります。



⑥ シートの取り外し

シートを外します。黄色い矢印の2本のボルトを外すとシートは簡単に取り外すことができます。



シート取付ボルトです。



⑦センタカバーの取り外し

続いてセンタカバーを外します。先にフューエルリッドを開けておきます。
次に、フューエルリッド後方のビスをプラスドライバを使って外します。



こんな形状のビスです。



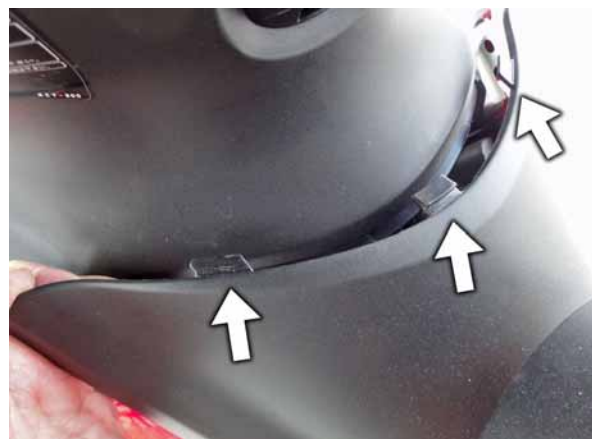
サービスマニュアルによると、爪の前方が車体の溝に引っかかっているため、車体後方方向(黄色い矢印方向)にずらしながら引き上げる必要がありますが、そう簡単に後方にずらして持ち上げるということができず、なんとなく騙し騙し外していくという感じでした。



フューエルリッドの前方も爪が刺さっています。



後ろにずらしながら外すと、爪はこのような形状になっています。3か所あります。



爪が外れてセンタカバーが浮き上がっても、フューエルリッドオープナーのワイヤが繋がっているため取り外すことができませんので、ワイヤを外します。ワイヤ被覆先端の溝がホルダに挟まっていますので、プライヤ等で外します。手前に引けば簡単に外れます。



次にワイヤの太鼓を外します。これで、センタカバーを外すことができます。



⑧ インナカバーの取り外し

インナカバーが最後の取り外し部品になります。6本のビスで取り付けられているので、プラスドライバで外します。1本目はインナポケット内にありますのでインナポケットを開いて取り外します。



メータパネルカバーを外した中にあるビスを外します。



右側も外します。これで3本目。



インナメンテナンスリッドを外した下に1本あります。



センタカバーを外した下にビスがあります。写真
は右側です。



最後、6本目は左側です。



外した6本のビスです。すべて同じものです。



メータパネルカバーを外した下にあるボルト1
本を外します。これでビス、ボルト類の取り外し
は終了です。



外したボルトです。



インナカバーの上部から外していきます。



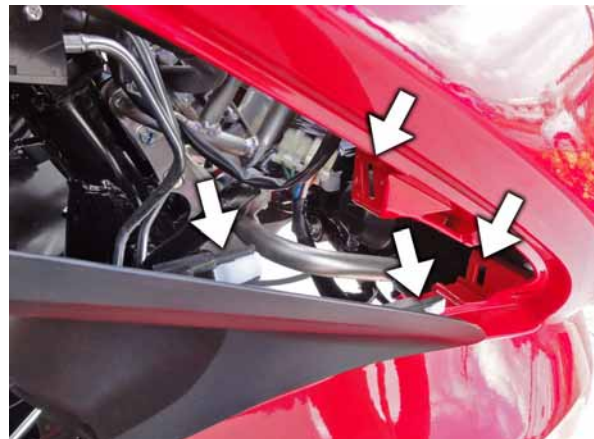
写真の白矢印の部分にスナップフィットクリップがあります。



右側も同様に上部から外していきます。



右側にもスナップフィットクリップがあります。
これで外装部品の取り外しは終了です。お疲れ様でした。



5. 各信号線の配線

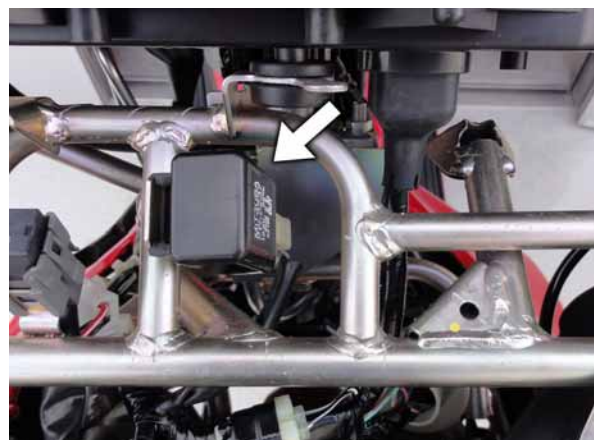
① 本体の設置場所

続いて配線作業に入ります。まずは、本体回路基板収納ボックスの設置場所をイメージしてください。写真の点線部分に設置予定です。PCX以外のツーリングモニタは設置場所について特に苦勞することなかったのですが、PCXは車体が小さいせいかあまり大きくもないボックスの設置場所がありません。あとで電池交換などもあるのであまり奥に設置もできません。結局、基板を設計変更して小さめのボックスに収めることにしました。それでもウインカーリレーが邪魔になるので、これを移設して何とか写真の場所に収めました。

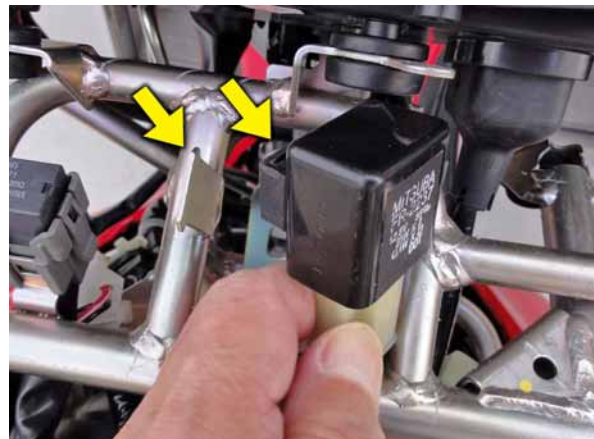


② ウインカーリレーの移設

本体回路基板収納ボックスの設置場所を確保するため、ウインカーリレーを移設します。別のステーを製作することも考えたのですが、きわめてシンプルな方法で移設することができました。



まず、ウインカリレーを外します。ウインカリレーはステーにゴムのスリットをはめ込んでいるだけなので、少し左右にゆすりながら持ち上げれば簡単に外すことができます。



ウインカリレーのソケットを外し、配線を取り回して、写真の位置に持って行きます。



さて、ここで少し力技になりますが、ウインカリレーのステーをプライヤ等で挟み、写真方向で見て少し左側に傾けます。元々、右側に傾いていますので、だいたい真っ直ぐ上を向くくらいでいいと思います。鉄板は薄いのでそれほど力をいれずに動きます。



写真は真上から見たところですが、ほぼ真上を向いています。

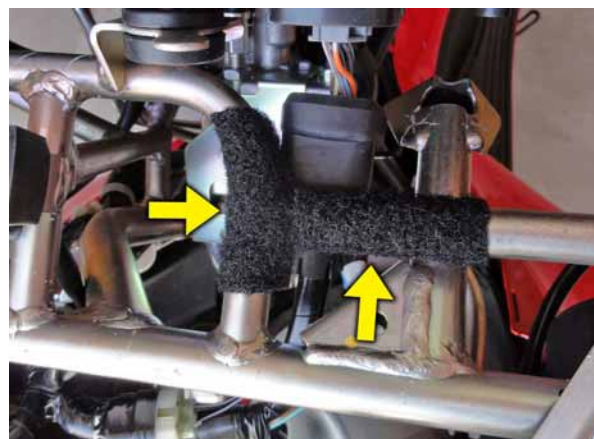


ウインカリレーにコネクタを接続して、写真のように元とは反対側に取り付けます。このとき、メインリレーに少しぶつかりますが、細かいことは気にしないことにします。特に悪影響はないと思います。

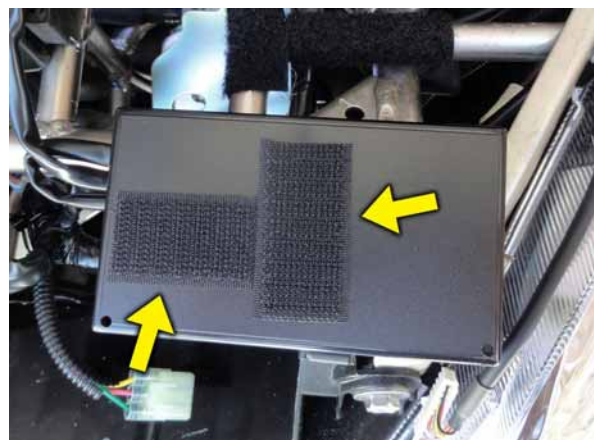


③ボックス本体の設置

本体回路基板収納ボックスを取り付けます。
フレームの写真の位置にマジックテープを貼り付けます。フレームが丸パイプなのでマジックテープの柔らかい方を貼り付けたほうが良いと思います。



回路基板収納ボックス本体にもマジックテープのもう一方を貼り付けます。下の写真を見てマジックテープを貼る方向を確認してください。



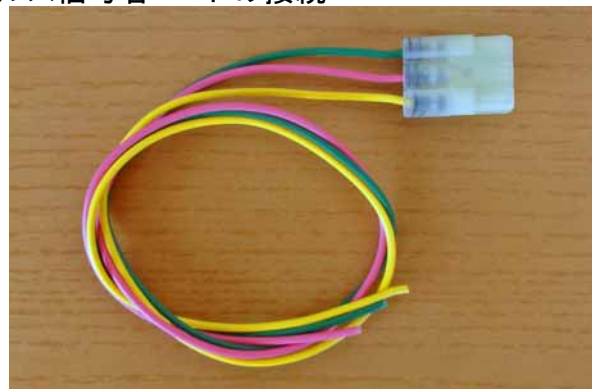
写真のように仮置きしておきます。設置方向はコードが出る切り欠きがある方が写真方向から見て右側(車両左側)になるようにします。



④エンジン回転信号、燃料噴射信号、スピードパルス信号各コードの接続

各コードの接続を行ないます。

まず、エンジン回転信号、燃料噴射信号、スピードパルス信号のコードを接続します。これらのコードは写真の緑、桃、黄の防水カプラーが付いているコードを使用します。



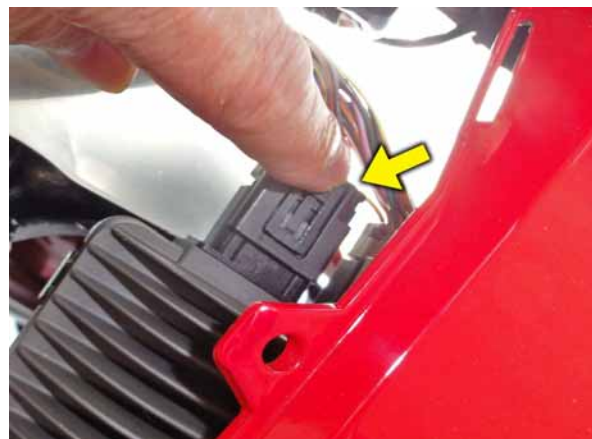
メータの下方、車体右側にエンジンコントロールユニットがあり、その上部にコネクタが接続されています。



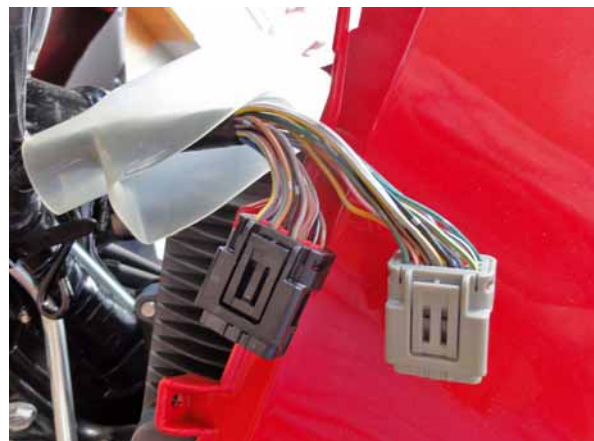
写真はコネクタカバーを外したところです。黒いコネクタと灰色のコネクタが見えます。



コネクタを外します。コネクタのロック部分(写真の黄色の矢印部分)を押してロックをはずしながら上に引き上げるとコネクタが外れます。少しかたいですから、左右にゆすりながら外してください。



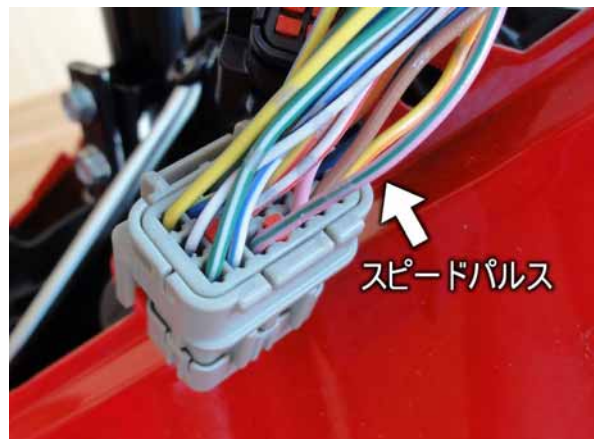
同様に灰色のコネクタも外します。奥にあるので少し外しにくいかもしれません。



黒コネクタの黄色に青い線が入っているコードがエンジン回転信号のコードです。また、桃色に青い線が入っているコードが燃料噴射信号のコードです。



灰色のコネクタにある桃色に緑の線の入ったコードがスピードパルス信号のコードです。



先ず、付属のコード3本をコネクタカバーの中に引き込みます。



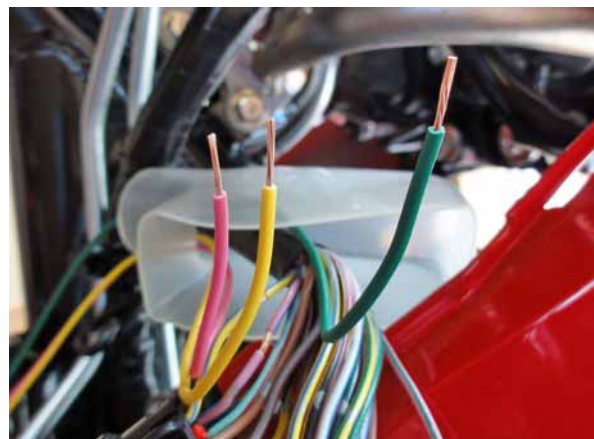
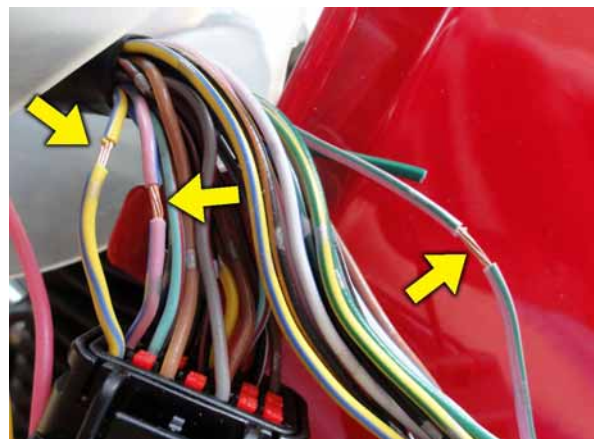
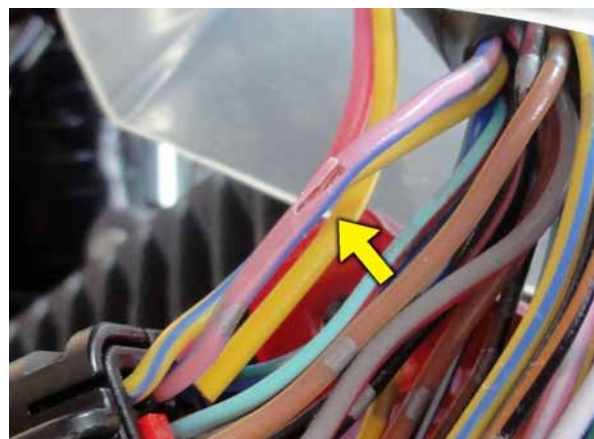
最初にPCXの信号コードのビニール被覆を剥きます。写真は燃料噴射信号コードの被覆を加工しているところです。特に順番はありませんから、やりやすいコードから接続してください。

カッターナイフで信号コードのビニール被覆を剥いていきます。コード内部の芯線を傷つけないようにビニール被覆の外周に切り目を入れます。被覆のみを輪切りにするように切込みを入れます。一箇所切り目を入れたら、そこから5～6ミリメートル離れたところにも同様に切り目を入れます。

切り目と切り目の間を縦に切り目を入れ、ビニールコードの被覆を剥がしていきます。

同様に、エンジン回転信号の黄色に青線のコード、スピードパルス信号の桃に緑線のコードもビニール被覆を剥きます。

次に、付属している緑、桃、黄の3本のコードの先端、10ミリメートル程度の被覆を剥きます。



次に、PCXの信号コードにツーリングモータ
付属コードを巻きつけます。巻きつけるときは、
なるべく巻きつけ箇所が小さくなるようにしっか
り巻いてください。写真はスピードパルス信号
コードに緑のコードを巻きつけたところです。
コードの接続は間違えないように色を良く確認
してください。
コードの色と信号は次のようになります。

ツーリングモータ		PCX
黄	----- エンジン	--- 黄に青の線
桃	----- 燃料噴射	--- 桃に青の線
緑	----- スピード	--- 桃に緑の線

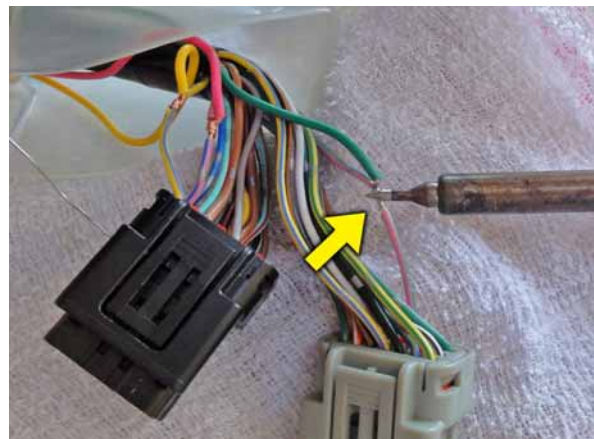
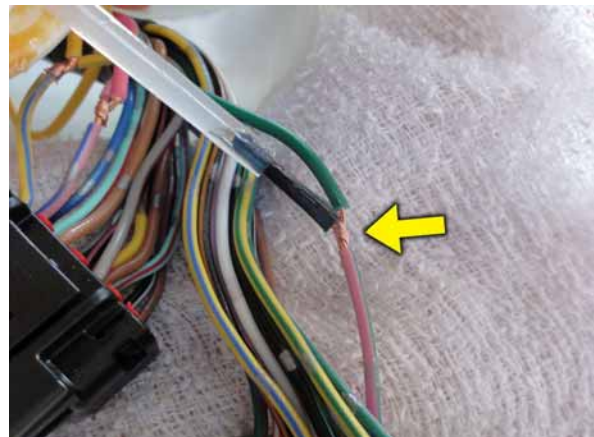
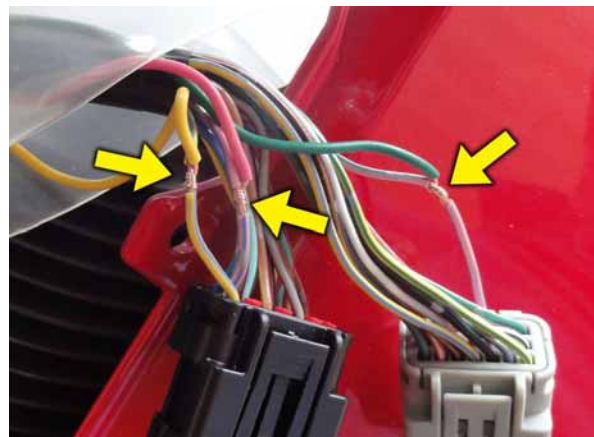
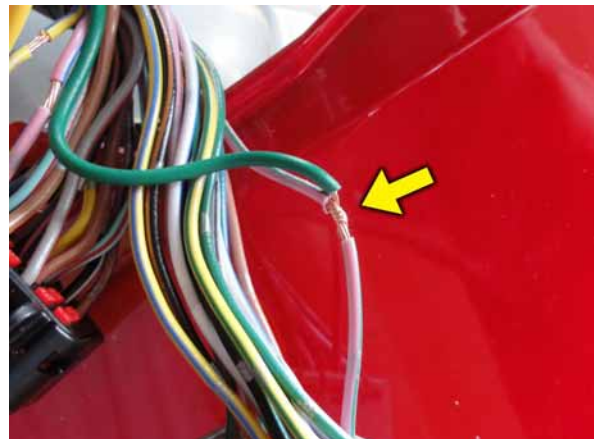
同様にツーリングモータ側桃コードをPCX側
桃に青の線のコードに、ツーリングモータ側黄
コードをPCX側黄に青の線のコードにそれぞれ
巻きつけてください。

コードの接続が間違っていないか今一度確認
してください。ここで間違うとおかしな表示に
なってしまいます。

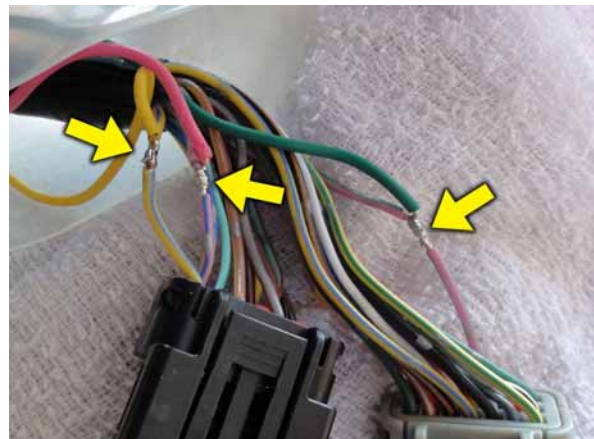
確認が終わったら、芯線を巻きつけた部分を
半田付けします。フラックスがあれば、塗ってお
きます。フラックスを塗るとはんだの染み込み
が良くなるので、あれば塗ってください。ない場
合は半田が確実に付くようにしてください。

半田ごてや溶けた半田で車体を傷つけない
ようにウエスなどを下に敷いておくといいでしょ
う。

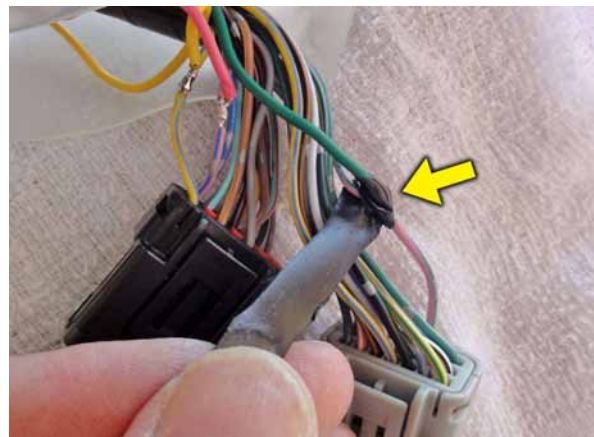
半田ごてを使いハンダ付けをします。



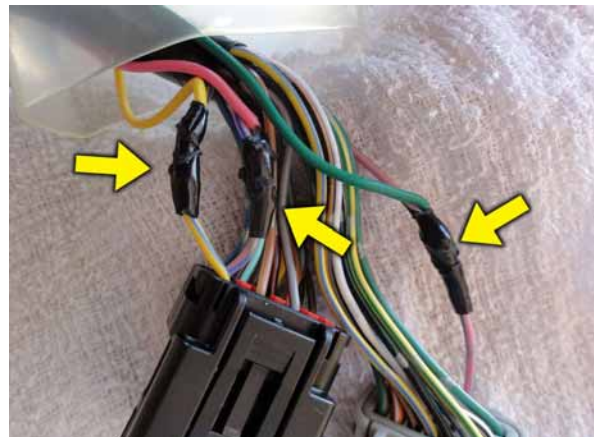
3箇所とも半田付けします。



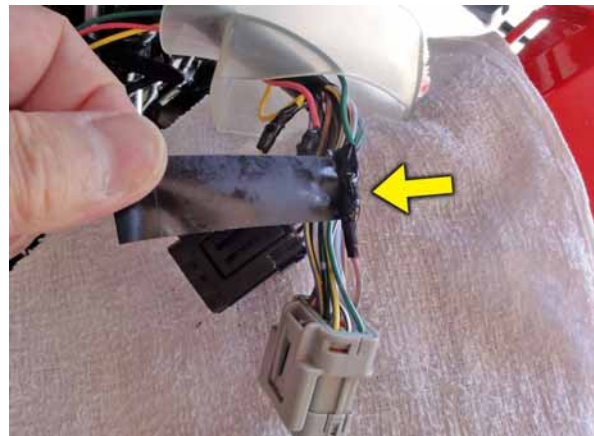
半田付けした部分を自己融着テープで巻きます。テープを巻く部分が小さいので、付属している自己融着テープは縦横半分に切ったものを使います。巻くときはテープを引っ張って伸ばしながら巻いてください。こうすることにより、テープ同士がくっつき合い水分などの侵入を防ぎます。



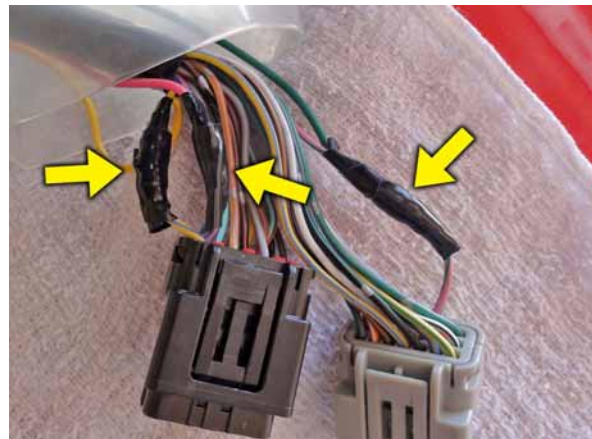
同様に3箇所とも自己融着テープを巻きつけます。



次に、絶縁テープを巻きつけて仕上げます。



3箇所とも絶縁テープを巻きつけます。



コネクタを確実に差し込んで、コネクタカバーをかぶせます。



⑤ 気温センサの取り付け

気温センサは特にどこに付けなければいけないというわけではありません。今回はフロントにある下側のフレームの車体左側につけました。日差しを遮る場所で、コード先端のセンサ部分がフレームなどの車体部分の温度の影響を受けないよう少し離して取り付けてください。

写真のように結束バンドで固定します。

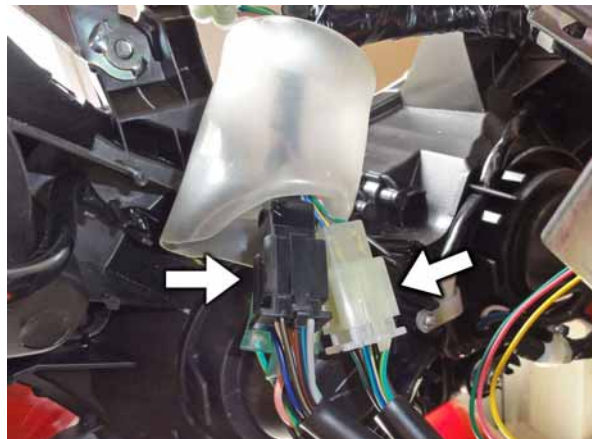


⑥ 電源プラス、電源マイナス、モードスイッチ、ウインカ信号各コードの接続

プラス・マイナスの電源とモードスイッチ信号（スタータスイッチの信号を利用します）、ウインカの各コードを接続します。接続する場所は左右のハンドルスイッチコネクタを利用します。ハンドルスイッチコネクタは左ヘッドライトの後ろにあります。写真の白矢印がコネクタのある場所です。半透明のカバーが被せてあります。



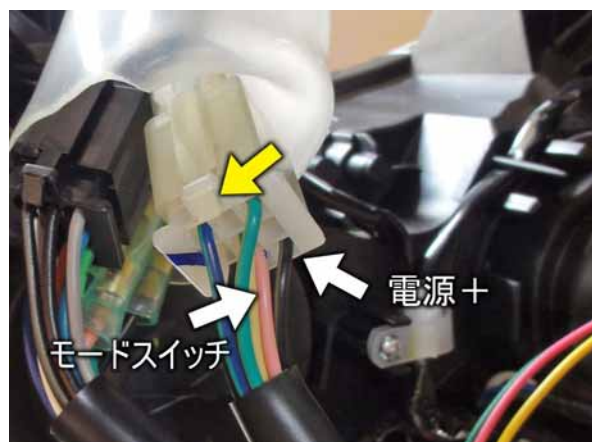
半透明のコネクタカバーをめくりあげると、中に黒と白のそれぞれ9ピンのコネクタがあります。



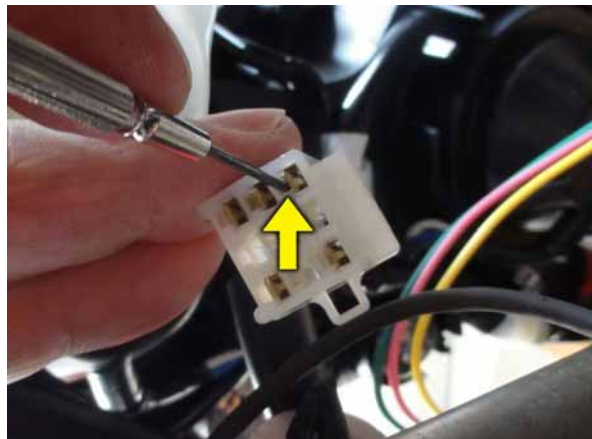
電源・モードスイッチ・ウインカ信号の各コードは回路基板から直接接続するので、回路基板をボックスに仮置きします。



電源のプラスとモードスイッチの接続位置は白いコネクタにあります。電源のプラスは黒に茶の線が入ったコード、モードスイッチは桃色のコードです。黄色い矢印部分を押し、コネクタのロックを外しながらコネクタを外します。



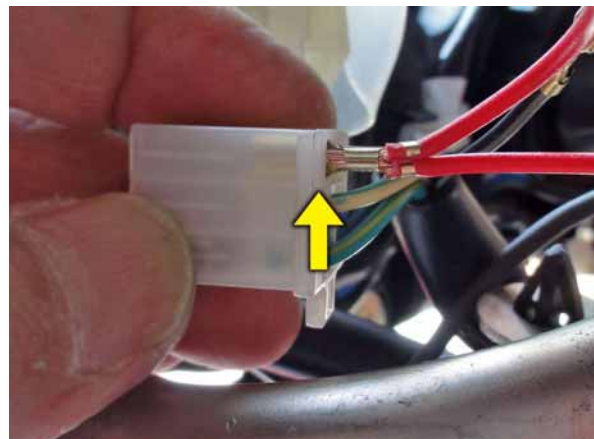
下側のコネクタ(ハンドルスイッチにつながっている方)は雌のピンになっています。まず、電源プラスのピンを外します。電源プラスの黒に茶の線のコードを確認して、コードと反対側からピンとコネクタの隙間に精密ドライバなどの先の尖ったものを差し込んでロックを外しピンを抜いてください。



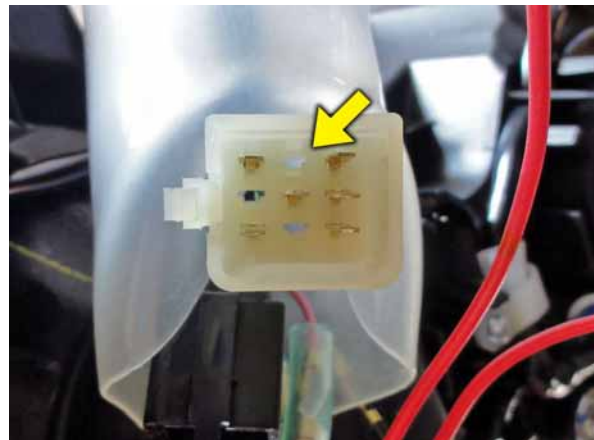
ピンは右の写真のようになっており、白い矢印の部分コネクタの突起に引っかかってロックになっているので、この部分を精密ドライバーなどで押して引っ込ませてコネクタから抜きます。



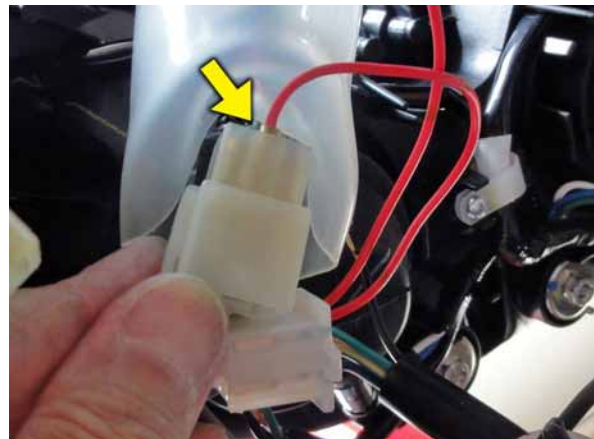
黒に茶の線のコードを引き抜いた場所に、ソーリングモニタからの赤コード(二股になっている)の雌ピンを差し込みます。



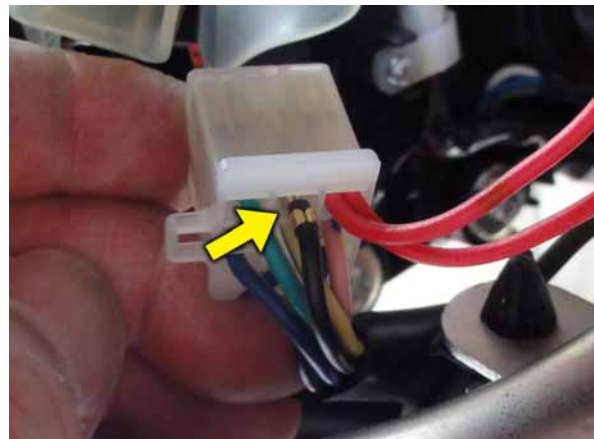
上で差し込んだ赤コードの二股になっているコードの一方には雄のピンが取り付けられているので、その雄のピンを雄ピンのコネクタの空きピンの場所に差し込みます。空きピンの場所はどこでもいいのですが、写真の矢印の位置にしましょう。



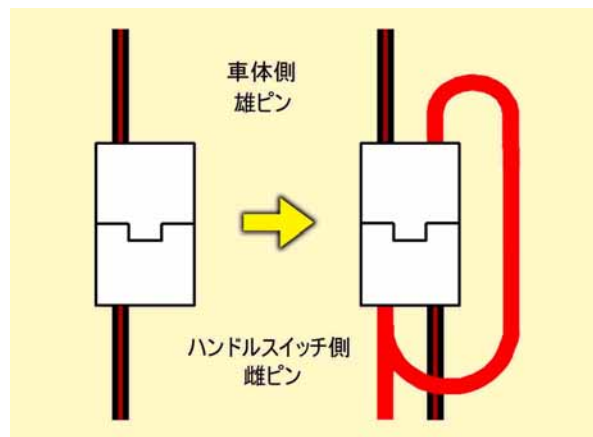
位置をよく確認して、赤コードの雄ピンを差し込みます。



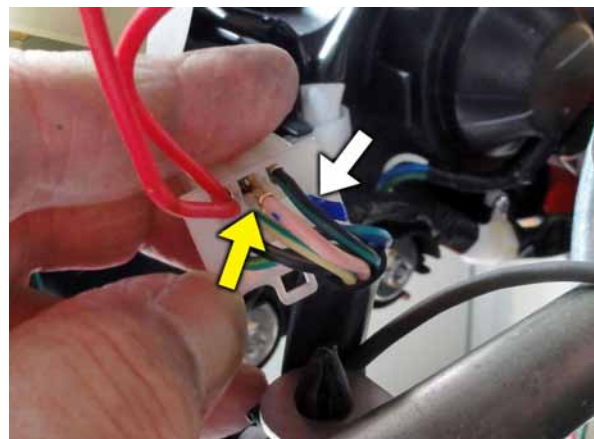
上の手順で押すピンを差し込んだ場所に対応する雌ピンのコネクタに、先ほど外したPCXの電源プラスコード黒に茶の線のコードを差し込みます。ツーリングモニタの赤コードの雄ピンと接続される場所になっているかよく確認してください。



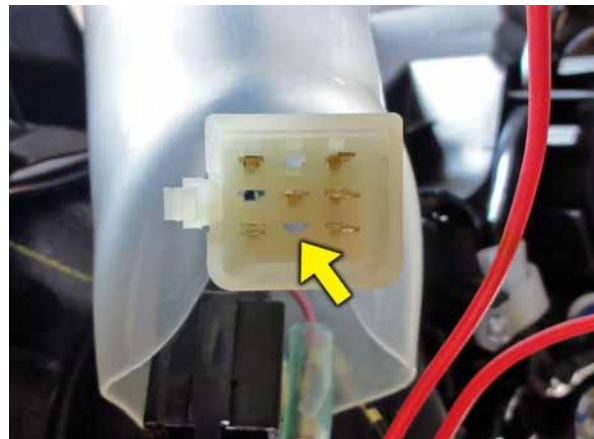
今までの作業を図で示すと右の図のようになります。これから作業するモードスイッチコード、ウインカ信号コード、電源マイナスコードも同様に接続します。



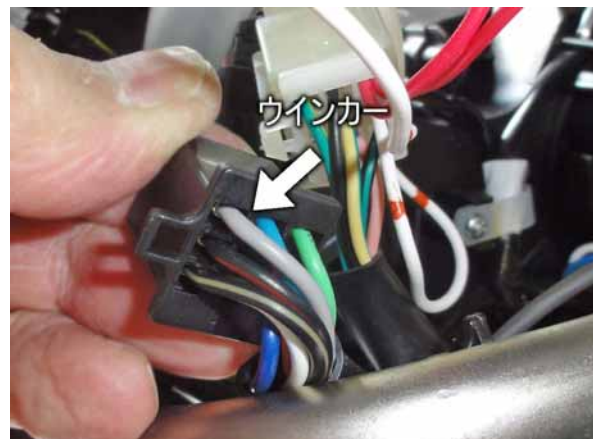
同様に、スタータスイッチの桃コードの雌ピン(黄色の矢印)を外して、外した場所にツーリングモニタの白コードの雌ピンをさしこみ、外したPCXの桃コードの雌ピンは白矢印の空きピンの場所に差し込みます。



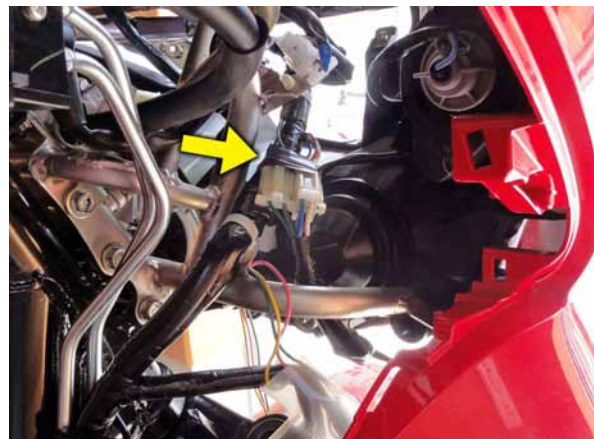
ツーリングモニタの白コードの二股になっている雄ピンの付いたコードを雄ピンコネクタの黄色い矢印の場所に差し込みます。この雄ピンと雌コネクタに挿したPCXの桃コードが接続されるかよく確認してください。



同様に、黒コネクタの白い矢印の場所にあるPCXの灰コードがウインカー信号のコードですので電源プラスやモードスイッチコードと同じように、配線をしてください。黒コネクタには空きピンの箇所は真ん中1箇所しかないのでここに引き抜いたPCXの灰コードの雌ピンを差し込みます。



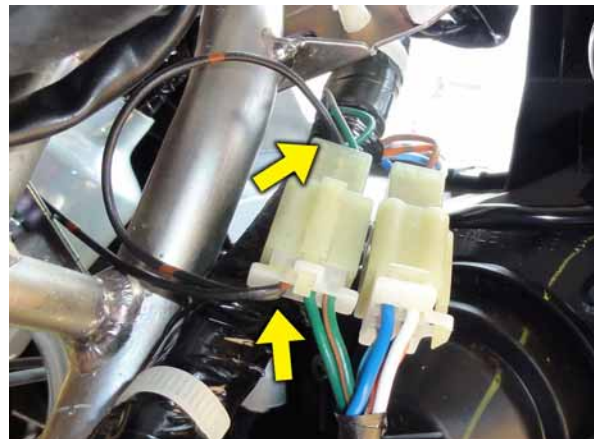
最後に電源マイナスのコードを接続します。接続方法は同じですがコネクタの場所が違います。コネクタは右ヘッドライト後方にあります。3Pと4Pのコネクタがワイヤハーネスにテープ止めされていますのでテープを剥がします。



3P(内1Pは空き端子)の緑と緑に橙の線のコードのコネクタの方に配線をします。緑のコードがマイナスのコードです。

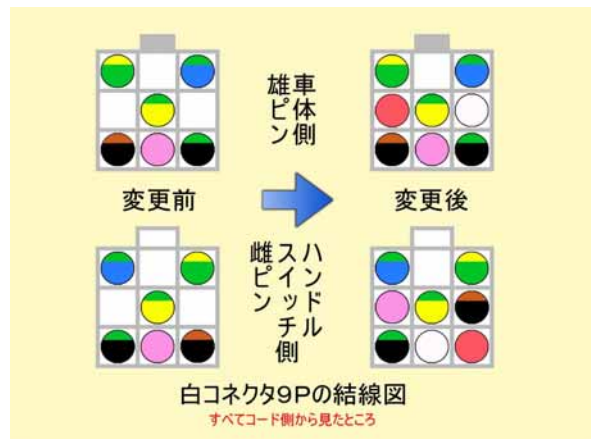


今までの作業と同様に、緑のコードの雌ピンを外し、その部分にツーリングモニタの黒コード雌ピンを挿し込み、外した緑コードの雌ピンは真ん中の空き端子に差し込みます。ツーリングモニタの黒コード雌ピンから分岐している雄ピンは上側雄ピンコネクタの真ん中の空きピンの場所に差し込みます。ピンの抜き差しが完了したら元のとおりコネクタを接続します。

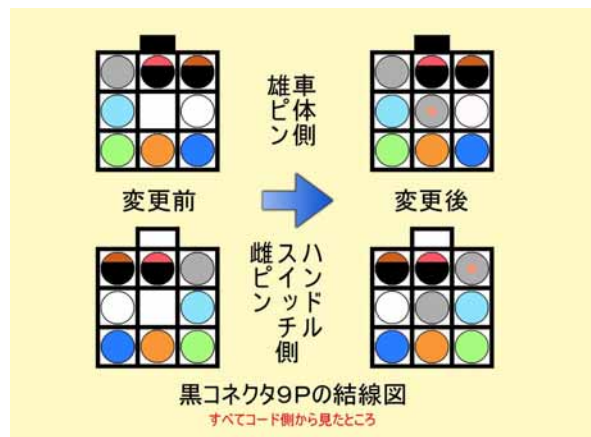


今までのコネクタピンの入れ替え作業を図にしてみました。図はコネクタにコードが差し込まれているほうから見た図です。したがって、雄ピン側と雌ピン側は左右対称になっているので、見ていて混乱しないようにしてください。コネクタの上がロックのある側です。コードの色が2色になっているのは、下側の色のコードに上側の色の線が入っていることを表しています。

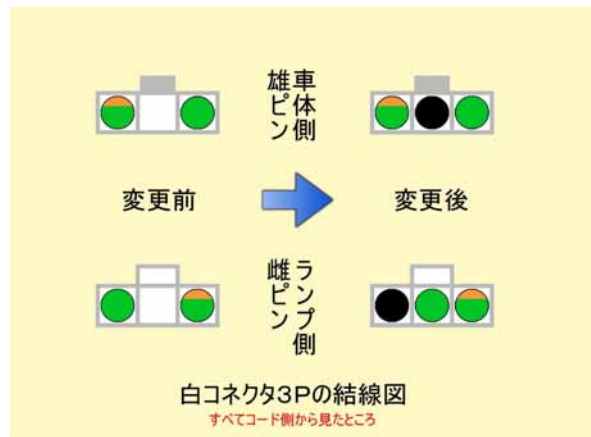
右の図は電源プラスとモードスイッチのコードを配線した白い9ピンのコネクタです。配線変更後にコードの色が図の変更後の配置になっているか確認してください。



右の図はウインカコードを配線した黒い9ピンコネクタです。ウインカのコードはPCXもツーリングモニタも同じ灰色なので、ツーリングモニタのウインカコードは灰色の中に橙の点を入れています。配線変更後にコードの色が図の変更後の配置になっているか確認してください。



右の図は電源マイナスコードを配線した白い3ピンコネクタです。配線変更後にコードの色が図の変更後の配置になっているか確認してください。

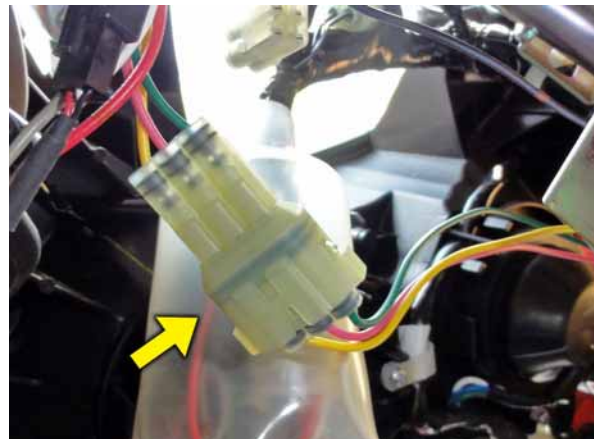


⑦各コネクタの接続

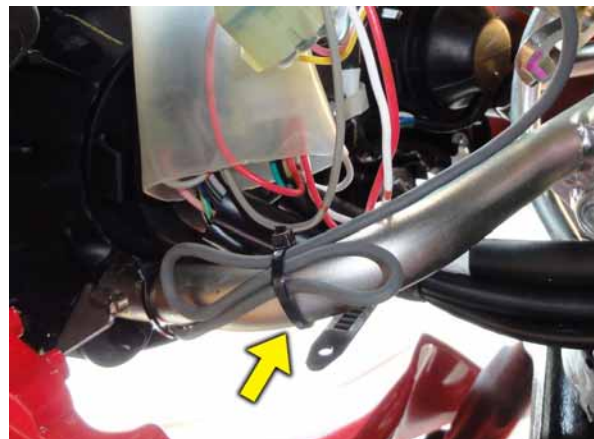
温度センサコードをツーリングモニタから出ている3ピンの黒い小さなコネクタに差し込みます。



エンジン回転信号、燃料噴射信号、スピードパルス信号各コードの防水3ピンコネクタをツーリングモニタから出ている3ピンの防水コネクタに差し込みます。



気温センサはコードが余ってしましたら、適当な場所に束ねて結束バンドで留めておきます。

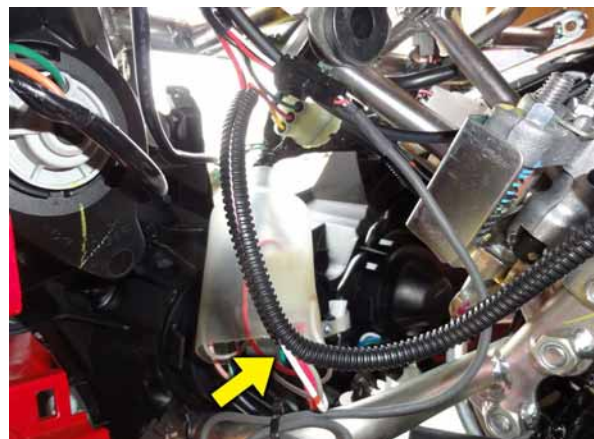


⑧コード保護チューブの取り付け

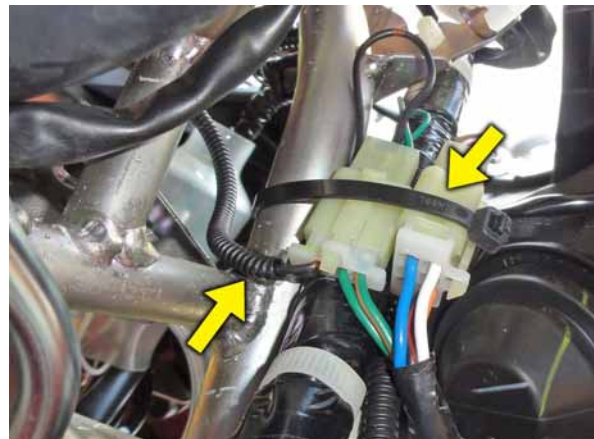
各コードに保護チューブを取り付けます。保護チューブはチューブの先端からコードを入れ、送り込むようにすると簡単に取り付けられます。写真はエンジン回転信号、燃料噴射信号、スピードパルス信号のコードに保護チューブを取り付けているところです。ここは5φの保護チューブを使用します。



電源プラス、モードスイッチ、ウインカの各コードも5φの保護チューブを使用します。



電源マイナスのコードは1本ですので3φの
細い保護チューブを使用します。また、コネクタ
はテープで巻いてありましたが、この場所は
テープで巻きづらい場所なので結束バンドで止
めておきます。



⑨液晶表示器の取り付け

次に液晶表示器を取り付けます。液晶表示
器は見やすい場所であればどこに取り付けて
もかまいませんが、例としてブレーキレバーホ
ルダを利用した取り付けを紹介します。

写真、白矢印のブレーキレバーホルダの留め
金具をミラーが取り付けられるネジ穴の開いた
もの(ミラーホルダ)と交換します。



5ミリの六角レンチを使用してブレーキレバー
ホルダを取り外します。



取り外したら、ミラー取付ネジの付いたミラー
ホルダを取り付けます。ネジは同じものを使いま
す。



本来ミラーを取り付ける場所に液晶表示器取付ステーを10ミリの短いボルト(ミラーホールカバーキャップ)を使って取り付けます。
液晶表示器取付ステーに液晶表示器貼り付け用のマジックテープを貼り付けます。



液晶表示器のコードをハンドルホスト部のブレーキホース等が通してある穴に差し込んでおきます。

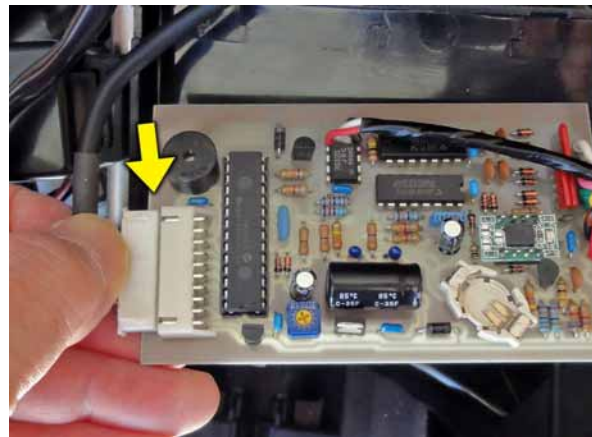


液晶表示器の裏にマジックテープを貼り、ステーに取り付けます。コードはハンドルスイッチコードを留めてあるバンドでとめておきます。

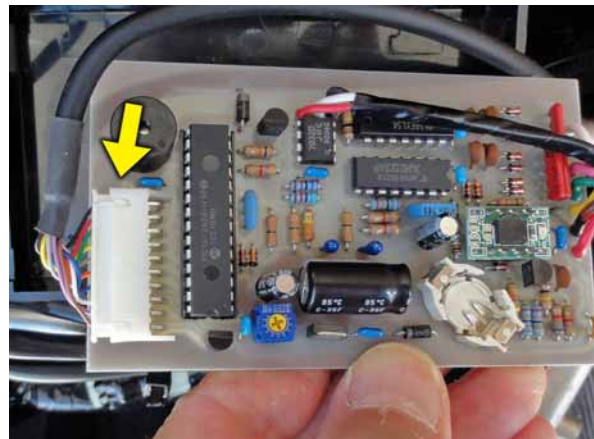


液晶表示器の10ピンのコネクタを、回路基板のコネクタに差し込みます。少しかたいと思いますが、慎重にしかし奥までしっかりと差し込んでください。

液晶表示器のコードは非常に細いのでおかしな力が加わると切れてしまうので注意してください。特に外す必要があるときは絶対にコードを引っ張らないで、コネクタの白いプラスチック部分にマイナスドライバなどを当てて、少しずつこじるようにして外してください。



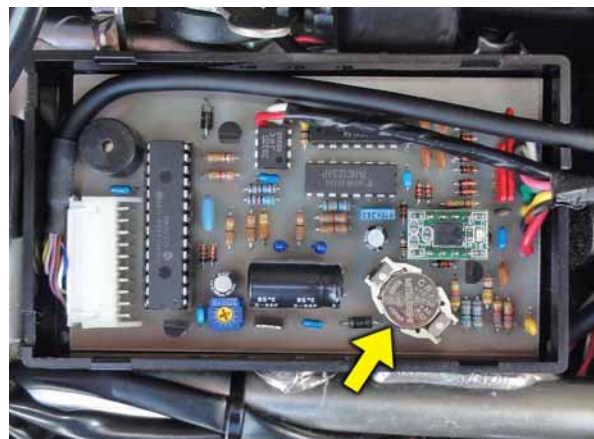
液晶表示器コードのコネクタの縁に少し出っ張りがあり、基板に引っかかることがあるので奥まで差し込まれているか確認してください。



回路基板をボックスに収めコードの束と液晶表示器のコードを矢印の位置に収めてください。



時計のバックアップ電池を写真黄色の矢印の場所に取り付けてください。プラスが上になります。取付の際には接触を良くし、腐食を防止するため乾いた布などでよく拭いた方が良いと思います。



以上で取付は完了です。ボックスの蓋を向きに注意して取り付けてください。



6. 各部のチェック

配線の接続をもう一度チェックして、メインスイッチをオンにしてください。液晶表示器に125と150の選択画面が出れば安心です。もし、何も表示されないときには電源関係が原因ですから、+12Vとアースの接続を確認してください。

無事に125、150の選択画面が表示されたら、ご自身の愛車の排気量を選んでください。モードスイッチ(スタートスイッチを兼用)の操作方法は取扱説明書6ページをご覧ください。また、125/150選択方法は取扱説明書の「3. 初めて使うとき ②125/150の選択と時計の時間設定」をご覧ください。

125/150の選択が終了すると、時計設定画面になります。取扱説明書29ページからの「11. 時計設定モード」を参照して時計を合わせてください。

時計合わせが終了するとオープニングメッセージを表示して、いよいよ通常使用ができるようになります。

では、メインスタンドで車両を立てて、エンジンをかけ、左ブレーキレバーを握らない状態でモードスイッチ(スタートスイッチ)を数回押して、表示を燃料噴射量・速度にしてください。エンジンを軽く吹かして後輪を回転させます(車両が走り出さないように十分注意してください。排ガスにも十分注意してください)。写真のように、エンジン回転数と、燃料噴射量が表示され、スピードの数値が上がれば、各信号は正常に接続されています。もし、各表示が「0」のままの場合は、「7. 故障かなと思ったら」をご覧ください。



最後に、ウインカを点滅させ、ウインカブザーがピッピッと鳴るか確認してください。

以上、正常であることを確認できましたら、取り付けは完了です。分解した手順の逆で組み立ててください。



7. 故障かなと思ったら

故障と思われる症状が表にありましたら、その対策の欄を参照して対応してください。それでも異常が解決されない場合、または、表に症状がない場合はメールにてご連絡ください。

症 状	原 因 と 対 策
・メインスイッチを入れても、液晶画面に何も表示されない。バックライトも点灯しない。	・電源のプラス(赤のコード)またはマイナス(黒のコード)またはプラスとマイナスのコードが正常に接続されていない。接続を確認してください。
・液晶画面のバックライトは点灯するが、文字が表示されない。	・液晶表示器のコードの接続不良。コネクタ(基板の上の10Pコネクタ)が確実に接続されているか、断線がないか確認してください。 ・コントラストの調整不良。取扱説明書「14. コントラストの調整」をご覧ください。
・液晶画面に文字は表示されるが、バックライトが点灯しない。	・液晶表示器のコードの接続不良。コネクタが確実に接続されているか、断線がないか確認してください。
・液晶画面に意味不明の文字が表示される。	・液晶表示器のコードの接続不良。コネクタが確実に接続されているか、断線がないか確認してください。
・エンジンをかけてもタコメータが0のままである。	・エンジン回転数信号コード(黄色のコード)が正常に接続されていない。接続を確認してください。
・エンジンをかけて走行しても、区間走行距離が増加しない。または、スピードが0のままである。	・スピードパルス信号コード(緑色のコード)が正常に接続されていない。接続を確認してください。
・エンジンをかけて走行しても、区間燃料使用量が増加しない。または、瞬間燃費が0のままである。	・燃料噴射信号コード(桃色のコード)が正常に接続されていない。接続を確認してください。
・モードスイッチ(スタートスイッチ)を押しても表示が切り替わらない。	・モードスイッチコード(白色のコード)が正常に接続されていない。接続を確認してください。 ・左ブレーキレバーを握った状態でモードスイッチを操作している。左ブレーキレバーを離して操作してください。

・ウインカブザーが鳴らない。	・ウインカコード(灰色のコード)が正常に接続されていない。接続を確認してください。 ・ウインカブザーの設定が「使用しない」に設定されている。取扱説明書の「10. 設定モード ⑨ウインカブザーの設定」をご覧ください、ウインカブザーを「使用する」に設定してください。
・PCXの走行距離と区間走行距離が合わない。	・取扱説明書の「10. 設定モード ⑤リヤタイヤ周長の設定」および「リヤタイヤ周長の決定方法」をご覧ください、設定してください。ただし、多少の誤差は修正できない場合があります。
・給油量と区間燃料使用量が合わない。	・取扱説明書の「10. 設定モード ⑥燃料噴射量の設定」および「燃料噴射量の決定方法」をご覧ください、設定してください。ただし、ツーリングモニタは燃料噴射量そのものを測定しているのではなく、燃料噴射装置の作動時間から燃料使用量を算出しているため多少の誤差は修正できない場合があります。
・PCXのスピードとツーリングモニタのスピードが合わない。	・ツーリングモニタはタイヤ周長と後輪の回転速度からスピードを計算しています。タイヤ周長は通常PCXの走行距離とツーリングモニタの区間走行距離が同じになるように設定しますので、PCXのスピードメータとツーリングモニタのスピードは異なる場合があります。両方のスピードを同じになるようにタイヤ周長を設定することは可能ですが、その場合はPCXの走行距離とツーリングモニタの区間走行距離が違ってきます。
・時計合わせしても、次に乗ろうとしたときに時計設定画面が表示される。	・時計のバックアップ電池が消耗しています。取扱説明書「15. 時計のバックアップ用リチウム電池の交換」をご覧ください、電池を交換してください。電池はリチウム電池CR1220です。